

## 株主メモ

事業年度 毎年7月1日から翌年6月30日まで  
定時株主総会 毎年9月に開催  
配当金受領株主確定日 毎年6月30日  
中間配当金を支払うときは毎年12月31日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関

同連絡先 〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 大阪証券取引所 ジャスダック市場

公告掲載新聞 日本経済新聞

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

住まいの飾り職人  
ATOM

アトムリビンテック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600 (大代表)  
ホームページ <http://www.atomlt.com/>



# ATOM

## IR NEWS

### 第57期 報告書

平成22年7月1日～平成23年6月30日

住まいの飾り職人  
ATOM  
アトムリビンテック株式会社





経営理念

「住まいの飾り職人」が作り出す  
独創的な商品で、  
社会の発展に貢献します

社訓

「独り歩きのできる商品づくり」

社是

「創意・誠実・進取」

#### 社名の由来

創業者は江戸指物(鏡台、茶箆筒、長火鉢等)の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する銚職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要も無い「リビングテック」の他に、まさしく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。



株主の皆様へ

## 第57期の業績について、ご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第57期の報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

ご報告に入ります前に、このたびの東日本大震災で被災された皆様へ謹んでお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。また、震災後、当社の被災状況につきましてご心配いただきました株主の皆様には、この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。幸いにも当社におきましては、一部事業所におきまして在庫商品の荷崩れ等が発生いたしました。事業活動に支障を来すことなく営業を継続することができました。

さて、第57期におきまして当社が位置する住宅市場は、各種の住宅取得支援政策の拡充効果を背景に、新設住宅着工戸数に緩やかな持ち直しの傾向が見られたものの、雇用および所得環境に未だ厳しさが残存し、本格的な回復にはいたらない低水準のうちに推移いたしました。こうした中、3月11日に発生いたしました東日本大震災により、住宅投資に対するマインドの低下が懸念される状況となりました。

こうした状況のもとで、当社は市場価格の適正化に努めるとともに、販売費および一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じつつ、積極的な商品展開と販路拡大に向け、懸命の努力を重ねてまいりました。また、第7次中期経営計画に基づき、経営組織の改革を通じた次代に向けた基盤構築を掲げ、厳しい市場環境に即応できる営業体制と、これを支える管理体制の強化を図り、当面する課題の達成に取り組んでまいりました。

こうした取り組みの結果、当期の売上高は68億51百万円(前期比8.0%増)、営業利益39百万円、経常利益79百万円、当期純利益1億10百万円となりました。

今後とも当社は、第7次中期経営計画の目標に掲げております「住空間創造企業」の実現を目指すとともに、業績のさらなる向上を目指し、全社一丸となって取り組んでまいります。

平成23年9月



代表取締役社長 高橋良一



# 「本業に徹する」ことを通じ、 成長基盤の確保に努めてまいります。

## Q 第57期の取り組みについてお聞かせください。

**A** 新商品の開発を積極的に進め、市場および販路の拡大に取り組んでまいりました。

まず、商品戦略におきましては、価格競争が激化する中、当社の子会社であります上海阿童木建材商貿有限公司などを活用し、海外生産品の安定的な調達に努めるとともに、国内生産品に対する購買の改善など、原価低減に向けた取り組みを行ってまいりました。また、住空間に利便性や快適性を求める市場動向に対応するため、ソフトクローズ機構をさまざまな分野に導入した商品群の開発強化と、市場への浸透に注力してまいりました。その一方で、商品構成を再構築する観点から、流通在庫の実態を的確に把握しつつ、訴求すべき商品を絞り込むなど、シリーズ商品の集約化を推進してまいりました。

市場戦略では、営業本部直轄で経験豊かな営業マンによって構成された販売促進グループを立ち上げ、当社商品の認知度向上と販路開拓を含む積極的な営業支援活動を展開してまいりました。ここ数年ですっかり定着したアトムCSタワーでの「秋の内覧会」および「春の新作発表会」では、内装金物のみならず、広くインテリアに関わる新商品の訴求に努めてまいりました。また、アトムCSタワーにおきましては、東海大学との産学協同による商品開発プロジェクト発表会や、当社をはじめ各種団体、企業による、さまざまなセミナーやイベントを恒常的に開催し、来館者数の飛躍的な向上を実現するなど、積極的に新分野・異分野の開拓を図ってまいりました。

情報システム戦略としては、SNSとして立ち上げた「インテリアファン」の充実を図ってまいりました。また、インター

ネットを介したオンラインショップでは商品アイテムを拡充強化するとともに、お客様の利便性向上を目指し、複数の大手ポータルサイトに出品するなど、その充実に取り組んでまいりました。

## Q 第57期の業績をどのように評価されていますか。

**A** 厳しい環境の中で、今後の飛躍に向けた経営基盤を固めることができました。

当社におきましては、住宅関連市場における一定の好転を背景に、第3四半期までは順調に推移してまいりました。しかしながら、第3四半期末において発生いたしました東日本大震災により、住宅関連市場におきましては輸送の停滞による資材調達の難航や、一部工場の喪失など、かなりの打撃を被り、当社も後退を余儀なくされる局面に遭遇いたしました。また、ここ数年来、住宅関連市場では市場規模が縮小したことで競争が激化するなど、極めて厳しい状況が続いてまいりました。

こうした状況の中、当社では訴求する商品を絞り込みつつ、市場ニーズの高いソフトクローズ機構を採用した商品のバリエーションを増やすなど、商品力の強化を図ってまいりました。こうした取り組みを通じ、自らの力で市場価格を形成することにより、売上高総利益率を低下させることなく売上高の拡大を図れたことは大きな収穫であったと思います。

こうした取り組みを進める一方、当期において立ち上げた販売促進グループにおいて、当社商品の認知度アップを目指した活動を進めてまいりました。販売促進グループでは、これまで直接のお取り引きがなかったお客様を訪問し、動画や電子カタログを駆使しながら当社商品をご紹介しますとともに、

「住空間の創造」を提案するアトムCSタワーへご案内するなど、地道な営業支援活動を行ってまいりました。これにより、市場の拡大、販路の拡大に一定の目処をつけることができたと考えております。

こうした点から、厳しい経営環境の下で業績を改善し、今後の飛躍に向けた経営基盤を固める上で重要な1年であったと評価しております。

## Q 第58期の経営課題についてお聞かせください。

**A** 本業に徹し、業績改善の足取りをより確かなものとしてまいります。

今回の東日本大震災で、より安全でより安心できる住宅を求める思いは、誰もがこれまで以上に強くなったのではないのでしょうか。当社では、今回の震災以降、住宅関連産業の一員としての社会的責任を果たすため、何ができるのかを真剣に検討してまいりました。その結果、当社が今日あるのも本業と真面目に向き合い、しっかり取り組んできた結果であり、これに徹することこそが、まさしく復興支援につながるとの結論に達しました。社員一人ひとりが、営業部門や開発部門、業務部門など、自分の持ち場で真摯に日常業務に取り組むことのすべてが復興支援であると考え、第58期の経営スローガンを「本業に徹する」ことといたしました。

第58期については、東日本大震災の影響による電力供給の制約や、サプライチェーン立て直しの遅れと再構築、さらには資源価格の高騰などの諸課題が山積し、予断を許さない経営環境が続くものと思われます。当社が位置する住宅関連市場においても、引き続き緩やかな回復傾向を示すと考えられる一方、早期における劇的な改善は望めない状況にあります。

こうした中であって、第58期は第7次中期経営計画の最終年度にあたることから、その目標としております「住空間創造企業」の実現に向け、取り組みを強化してまいります。中でも、創業以来、社訓として掲げてまいりました「独り歩きのできる商品づくり」を全うするとの観点から、長年、開発に取り組んだ結果、市場で開花しつつあるソフトクローズ機

構商品の充実・拡大を積極的に進めてまいります。加えて、アトムCSタワーを拠点に、商品開発と販路拡大の具現化を図るとともに、新規事業と既存事業との相乗効果を創出することで、第57期で示された業績改善の足取りをより確かなものとしてまいります。

## Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**A** 業績のさらなる向上を目指し、株主価値の向上に努めてまいります。

2期連続の欠損ということで株主の皆様にはご心配をおかけいたしました。第57期において黒字転換を図ることができました。今後の見通しについては、短期的にみれば不透明な要素が多分にあるものの、中長期的には住宅に対するニーズや新しい価値観が生まれてくることは必然です。こうした動きが現われたときに準備へ入るのでは後手を踏むことになり、現段階から万全の準備を進めておくことが成長のトレンドを掴む上で重要になってくると考えております。こうした観点から、より一層、新商品の開発と販路の拡大に努めてまいります。また、電気事業法による電力使用制限については、当社では復興支援に直結するとの考えから、すでに5月段階から試験的に15%以上の電力削減に取り組み、現在では概ね20%の使用抑制を実現いたしております。当社では、電力使用抑制だけではなく、あらゆる機会を通じて震災復興支援に寄与する取り組みを進めていきたいと考えております。

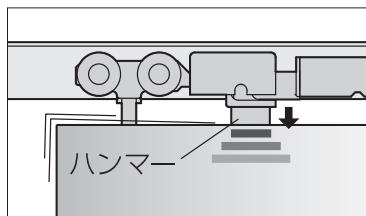
また、当然ながら株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題として捉え、積極的な配当を行うことを基本方針とする当社では、期末の配当金については1株につき10円とさせていただきます。中間配当金の10円と合わせ、年間の配当金は20円とさせていただきます。来期以降につきましても、この配当を維持してまいりたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも、当社の経営方針ならびに経営施策に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 進化するソフトクローズ機構

当社では、「独り歩きのできる商品づくり」を社訓に掲げ、ものづくりに取り組んでいます。こうした観点から、長年にわたり、住まいに快適性と利便性を提供するソフトクローズ機構の開発に取り組んできました。特に、ソフトクローズ機構は、デッドスペースがなく、自在にライフシーンを演出し、ユニバーサルデザインを具現化する引戸において、その特徴を遺憾なく発揮します。現在、当社では、引戸を中心に導入していますが、今後はソフトクローズ機構を取り入れた商品を、さまざまな分野に投入していく予定です。また、商品バリエーションの充実を図るとともに、細かな改良と改善を重ね、お客様のニーズに応える商品開発に努めてまいります。



跳ね上がり抑制機構付き上部吊り車

引戸の閉まり際の動きを緩やかにして、静かにゆっくりと閉じる、アトムのソフトクローズ機能。ソフトクローズ作動時にハンマーが引戸の上面を抑え込み、戸の跳ね上がりを抑制します。ソフトクローズの動きの高級感をさらに高めたハイグレードな吊り車です。

● HRシステム ソフトクローズタイプ FC-222-H



● AFDシステム ソフトクローズタイプ FC-2900-H



## 「2011春の新作発表会」を東京と大阪で開催いたしました。



毎年恒例である年2回のセールス・プロモーションイベント「秋の内覧会」と「春の新作発表会」では、内装金物だけでなく、広くインテリアに関する新商品を展示することで、回を重ねるごとに注目度が高まっています。「2011春の新作発表会」は、東日本大震災直後の今年4月、大阪では2011年4月13日から15日までの3日間、アトム住まいの金物ギャラリーで、また東京では同年4月20日から22日までの3日間、アトムCSタワーで、復興支援の一環に繋がるものとして開催いたしました。今回の展示会では、ここ数年、一定の評価を頂戴している「引戸ソフトクローズ」の充実したバリエーションを発表いたしました。



## 「ATOM+東海大学 産学協同作品展」を開催いたしました。



当社では、新分野・異分野の開拓を目指す観点から、2008年より東海大学教養学部芸術学科デザイン学課程と協同で、「ATOM+東海大学 産学協同作品展」を開催してまいりました。4回目を迎えた今年も、「2011春の新作発表会」東京会場での同時開催となりました。作品展には4名の学生が、「住まいの安全、安心、快適提案」をテーマに、暮らしに便利さや快適さ、豊かさを提案するユニークな作品を出展いたしました。当社では、こうした学生たちの斬新なアイデアや豊かな感性とふれあうことで、今後とも、当社の企業理念である「より良い金物を自らが考え、自ら普及させていく」ことを具現化するモノづくりを一層、深化させてまいります。



**Lailight**  
手すりと一体  
足もとを照らして  
くれるライト

● 蛇田 江季



**Rack Step**  
棚をもっと、  
便利に

● 安井 惇浩



**GADGETCH**  
壁厚を利用した  
小物収納

● 佐々木 渉



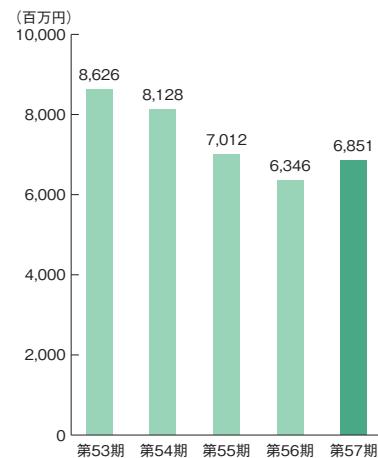
**RAKUVEGE**  
食育を助ける  
室内プランター

● 石渡 雅子

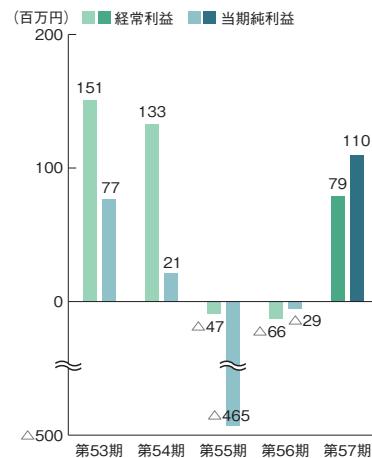


## 業績の推移

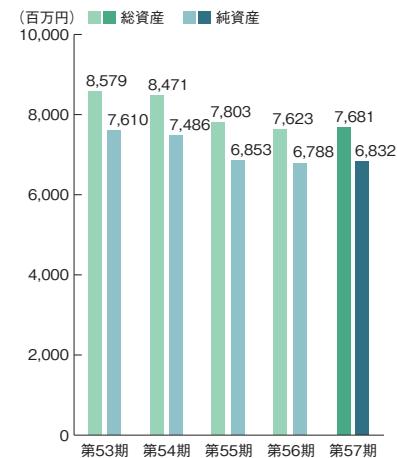
### ● 売上高



### ● 経常利益／当期純利益



### ● 総資産／純資産



### ● 主要経営指標

	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
売上高営業利益率 (%)	1.1	0.3	△1.6	△2.0	0.6
総資本営業利益率 [ROA] (%)	1.1	0.2	△1.3	△1.6	0.5
自己資本利益率 [ROE] (%)	1.0	0.3	△6.5	△0.4	1.6
流動比率 (%)	712.4	736.4	714.8	938.2	815.6
固定比率 (%)	52.9	49.8	51.7	48.3	54.5
自己資本比率 (%)	88.7	88.4	87.8	89.1	88.9
1株当たり純資産額 (円)	1,854.0	1,823.7	1,717.6	1,701.5	1,712.3
1株当たり当期純利益又は純損失(△) (円)	18.9	5.3	△115.5	△7.4	27.7
1株当たり配当額 (円)	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
配当性向 (%)	106.0	374.5	—	—	72.3

※第55期・第56期の配当性向について  
当期純損失であるため算定しておりません。



## 財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前期 (自平成21年7月1日 至平成22年6月30日)	当期 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)
売上高		6,346,396	6,851,295
売上原価		4,621,439	4,988,858
売上総利益		1,724,956	1,862,437
販売費及び一般管理費		1,851,128	1,823,377
<b>営業利益又は営業損失 (△)</b>		<b>△ 126,171</b>	<b>39,059</b>
営業外収益		59,318	54,763
営業外費用		38	14,705
<b>経常利益又は経常損失 (△)</b>		<b>△ 66,891</b>	<b>79,118</b>
特別利益		34,014	—
特別損失		8,611	2,938
<b>税引前当期純利益又は純損失 (△)</b>		<b>△ 41,488</b>	<b>76,180</b>
法人税、住民税及び事業税		1,365	2,468
法人税等調整額		△ 13,421	△ 36,649
<b>当期純利益又は純損失 (△)</b>		<b>△ 29,432</b>	<b>110,361</b>

## 損益計算書

### Point 営業利益

売上高の増加に伴い売上総利益が増加したことに加え、販売費及び一般管理費の圧縮に努めた結果、黒字転換を図ることができました。



## 財務諸表

### 貸借対照表

#### Point 現金及び預金

現金及び預金は、前期末に比べ265百万円の減少となりました。主な理由はキャッシュ・フロー計算書のコメントをご参照ください。

科目	期別 前期 (平成22年 6月30日現在)	当期 (平成23年 6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	1,870,572	1,605,164
受取手形及び売掛金	1,565,567	1,694,990
有価証券	387,810	101,420
商品	447,847	471,535
貯蔵品	12,936	—
その他	62,414	86,605
貸倒引当金	△ 3,453	△ 3,909
流動資産合計	4,343,693	3,955,806
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,167,042	1,110,544
工具、器具及び備品（純額）	110,183	97,530
土地	1,027,767	1,027,767
その他（純額）	1,317	1,183
有形固定資産合計	2,306,310	2,237,026
無形固定資産		
	35,406	21,201
投資その他の資産		
投資有価証券	820,118	1,357,473
その他	119,204	116,921
貸倒引当金	△ 1,632	△ 7,144
投資その他の資産合計	937,690	1,467,251
固定資産合計	3,279,406	3,725,478
資産合計	7,623,099	7,681,284

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別 前期 (平成22年 6月30日現在)	当期 (平成23年 6月30日現在)
(負債の部)		
流動負債		
買掛金	350,638	349,571
未払法人税等	4,961	5,554
その他	107,371	129,901
流動負債合計	462,972	485,027
固定負債		
退職給付引当金	185,063	189,584
役員退職慰労引当金	179,345	167,762
その他	6,893	6,896
固定負債合計	371,303	364,244
負債合計	834,275	849,271
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	300,745	300,745
資本剰余金	273,245	273,245
利益剰余金	6,278,179	6,308,743
自己株式	△ 64,475	△ 64,475
株主資本合計	6,787,693	6,818,257
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,130	13,756
評価・換算差額等合計	1,130	13,756
純資産合計	6,788,824	6,832,013
負債純資産合計	7,623,099	7,681,284

### 株主資本等 変動計算書

(自平成22年7月1日  
至平成23年6月30日)

(単位：千円未満切捨て)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計			
				土地圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金				
平成22年6月30日 残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	153,074	6,278,179	△ 64,475	6,787,693
事業年度中の変動額										
剰余金の配当							△ 79,797	△ 79,797		△ 79,797
当期純利益							110,361	110,361		110,361
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）										
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	—	30,563	30,563	—	30,563
平成23年6月30日 残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	183,637	6,308,743	△ 64,475	6,818,257

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成22年6月30日 残高	1,130	1,130	6,788,824
事業年度中の変動額			
剰余金の配当			△ 79,797
当期純利益			110,361
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）	12,625	12,625	12,625
事業年度中の変動額合計	12,625	12,625	43,189
平成23年6月30日 残高	13,756	13,756	6,832,013



## 財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

科 目	期 別	前 期	当 期
		(自平成21年7月1日 至平成22年6月30日)	(自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		184,146	139,498
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 5,813	△ 324,574
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 79,891	△ 80,332
現金及び現金同等物の増加(△減少)額		98,441	△ 265,407
現金及び現金同等物の期首残高		1,772,130	1,870,572
現金及び現金同等物の期末残高		1,870,572	1,605,164

### キャッシュ・フロー計算書

#### Point 営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、税引前当期純利益76百万円、資金流出ではない減価償却費183百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、売上債権の増加額134百万円等によるものです。

#### Point 投資活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、有価証券の償還による収入385百万円、投資有価証券の売却による収入178百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、商品開発の金型など有形固定資産の取得による支出87百万円、投資有価証券の取得による支出804百万円等によるものです。

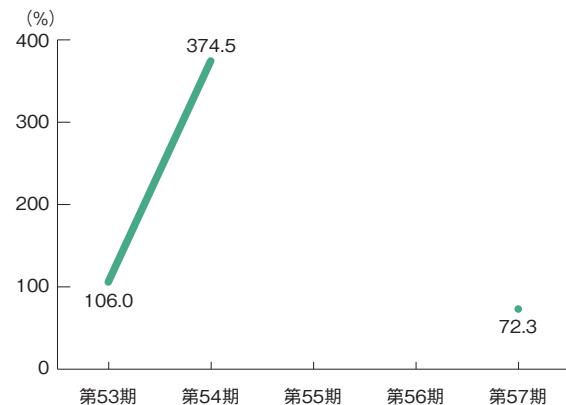
#### Point 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額80百万円によるものです。



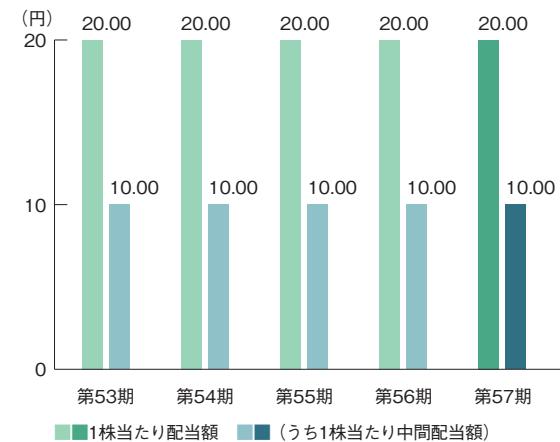
## 配当状況

### ● 配当性向



(注) 第55期・第56期について  
当期純損失であるため、配当性向は算定していません。

### ● 1株当たり配当額

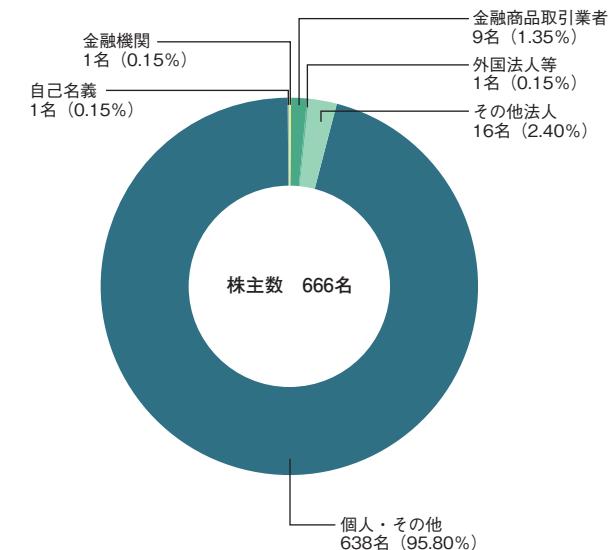


## 株式の状況 (平成23年6月30日現在)

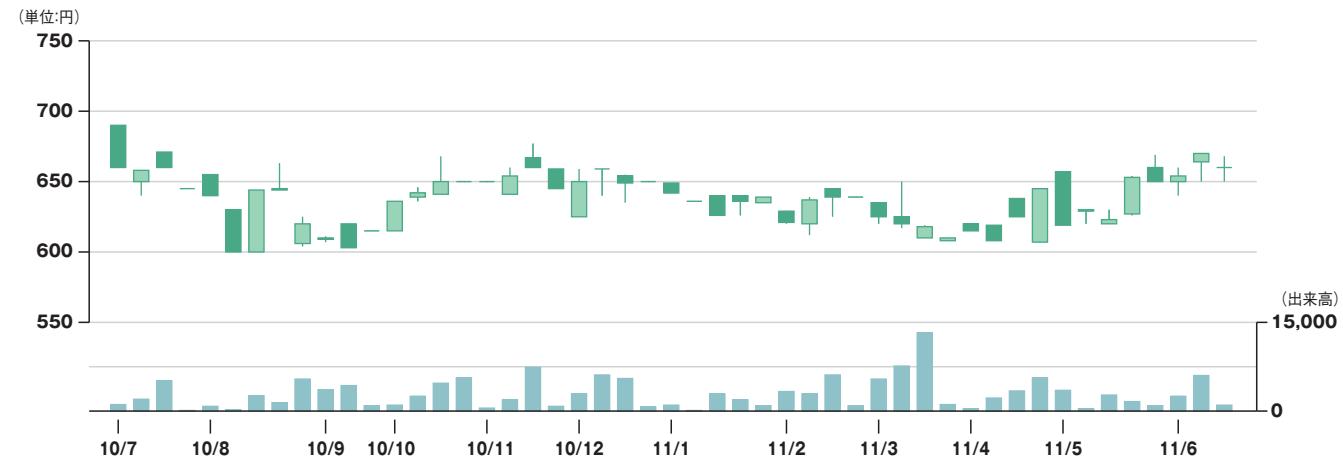
発行可能株式総数 15,420,000株  
 発行済株式の総数 4,105,000株  
 株主数 666名  
 大株主(上位10名)

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	985,440	24.00
高橋良一	610,000	14.85
アトムリビントック従業員持株会	334,360	8.14
アトムリビントック取引先持株会	261,900	6.38
高橋快一郎	183,000	4.45
高橋寿子	154,000	3.75
大塚李代	137,000	3.33
アトムリビントック株式会社	115,117	2.80
佐藤俊夫	90,600	2.20
磯川産業株式会社	81,500	1.98

### ● 株主の所有者別分布状況 (平成23年6月30日現在)



## 株価および出来高の推移





## 会社概要 (平成23年6月30日現在)

商号 アトムリビンテック株式会社  
 創業 明治36年  
 設立 昭和29年10月  
 事業内容 家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、  
 住まいの金物全般の企画・開発・販売  
 主要取引銀行 株式会社みずほ銀行  
 株式会社三菱東京UFJ銀行  
 従業員数 113名 (嘱託5名・パート16名含まず)



## 役員 (平成23年6月30日現在)

代表取締役社長 高橋 良一  
 取締役 後藤 厚  
 取締役 神原 誠  
 取締役 根本 博  
 常勤監査役 馬場 敏雄  
 監査役 岸田 充雄  
 監査役 輿水 洋一

■ ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、  
 様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧ください。



## 事業所一覧 (平成23年6月30日現在)

本社 〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号 TEL 03-3876-0600  
 アトムC/Dセンター (商品本部) 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号 TEL 048-922-5551  
 ※平成23年7月18日より住居表示が変更されました。  
 札幌営業所 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号  
 井門札幌東ビル1F TEL 011-748-3113  
 前橋営業所 〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号 TEL 027-223-2651  
 広島営業所 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9 TEL 082-291-4235  
 アトムCSタワー 〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号  
 オンデマンド事業部 TEL 03-3437-3673  
 ショップ&ショールーム亜吐夢金物館 TEL 03-3437-3440  
 アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5 TEL 06-6821-7281



## 関連会社 (平成23年6月30日現在)

上海阿童木建材商貿有限公司 (中華人民共和國)



シリーズ  
企画

## アトムCSタワー最前線 SPECIAL ISSUE

### 東日本大震災復興支援企画

# アートの火は消せない。

「東北炎の作家／復興支援展示会」を開催しました。



震災によって、陶芸家の命である窯が多数被災した。写真は、今回の震災で崩壊した窯。

3月11日の東日本大震災以来、住宅関連産業に位置する当社は、震災復興支援として何ができるかを模索してきました。そうした中、当社事業の情報発信基地であるアトムCSタワーで出会った方々の協力を得て、工芸品を住まいのインテリアとして位置づけ、震災で深刻な打撃を受けた東北の工芸家を支援すべく、「東北炎の作家／復興支援展示会」を開催しました。展示会は、2011年6月28日から7月1日までの4日間、8階をメイン会場に、屋上ギャラリー、5階「GA-LA-BO」の3会場で開催され、陶器やガラス、金属、漆、絵画などに携わる作家28人の約700作品を展示販売しました。

オープニング当日のレセプションパーティーにおいては、全国から参集した有志の方々が東北を地盤に活動するアーティストを囲み、詩の朗読や楽曲を披露するなど、支援活動を大いに盛り上げていただきました。

当社といたしましては、今後もインテリアの一翼を担う作品を生み出す作家活動を支援するため、期間限定ではなく、無期限の支援プロジェクトとして、CSタワー内に常設展示販売コーナーを設け、継続的に「東北炎の作家／復興支援活動」に取り組んでまいります(この収益については全額被災地に贈呈する予定です)。

